

県立高等学校再編振興計画の策定経過について

平成 24 年度までの取組状況

- 県立高等学校再編計画 (平成 15 年 11 月策定)
県立高校の教育内容等の質的向上を図り、子どもたちにより良い教育環境を提供するために、平成 16 年度から平成 25 年度までの 10 年間を実施期間として「特色ある学校づくり」と「県立高校の適正な規模と配置」に取り組んできた。
・大柄高校、仁淀高校の統合等を実施

- 県立高等学校再編振興に関する報告 (平成 25 年 2 月)
生徒数の大幅な減少を見据えながら県立高校の在り方を示す新たな計画策定が必要として、平成 23 年に県内の有識者や学校関係者からなる「県立高等学校再編振興検討委員会」を設置した。
検討委員会において、今後の県立高校の再編振興の方向性や高校教育の質を保証する学校規模等について検討を行い、(H23. 9～H25. 2 検討委員会 12 回、作業部会 7 回開催)「県立高等学校再編振興に関する報告」として取りまとめられた。

平成 25 年度の取組状況 (平成 26 年度一部含む)

- 県立高等学校再編振興計画(案)の策定に向けた教育委員会事務局での検討 (H25. 2～11)
「県立高等学校再編振興検討委員会」からの報告を踏まえ、教育委員会事務局において県教育委員の意見も聞き、南海トラフ地震への対策等も考慮しながら、事務局の考え方を整理した。

○ 教育委員協議会における事務局案の協議

県立高等学校再編振興計画に関する事務局案を、教育委員協議会に提出し、計画策定に向けた方向性等についての協議を公開の場で行った。

＜教育委員協議会の開催＞ (計 8 回)

- ・ (H25. 12. 5、12. 18、12. 26)
「県立高等学校再編振興計画の基本的な考え方(案)」について協議
- ・ (H26. 1. 27、1. 31)
「県立高等学校再編振興計画の基本的な考え方(案)」、「前期実施計画(案)の策定に向けたたたき台」等について協議
- ・ (H26. 2. 12、2. 18、3. 8)
「前期実施計画(案)の策定に向けたたたき台」等について協議

○ 学校関係者等への事務局案の説明

教育委員協議会に提出した事務局案について、要請のあった高知南中学校・高校、須崎工業高校、須崎高校、高知西高校の保護者会等への説明を実施。

- ・ (H26. 1. 28、1. 30、2. 15) 高知南中学校・高校の保護者等を対象
- ・ (H26. 2. 3、3. 18) 須崎工業高校の保護者等を対象
- ・ (H26. 2. 5、2. 10) 須崎高校の保護者等を対象
- ・ (H26. 3. 28、4. 28) 高知西高校の保護者等を対象

平成 26 年度の取組状況

○教育委員協議会における協議

第 1 回 H26. 4. 25 「県立高等学校再編振興計画」策定に向けた今後の進め方(案)を協議

《第 2 回から第 13 回は、各学校関係者の代表等からたたき台に関する意見を聴き協議》

第 2 回 H26. 5. 17 高知南中学校・高校の保護者、校友会、進取会、国際教育振興会

第 3 回 H26. 5. 31 高知西高校の保護者、校友会、国際交流推進会

第 4 回 H26. 6. 3 須崎工業高校・須崎高校の保護者、同窓会

第 5 回 H26. 6. 16 高知県小中学校長会、高知県小中学校 P T A 連合会、高知県高等学校 P T A 連合会

第 6 回 H26. 6. 17 高知南中学校・高校の保護者、校友会、進取会、国際教育振興会

第 7 回 H26. 7. 8 須崎工業高校・須崎高校の保護者、同窓会

第 8 回 H26. 7. 16 高知県市町村教育委員会連合会、高知県高等学校長協会

第 9 回 H26. 7. 22 高知南中学校・高校の保護者、校友会、進取会、国際教育振興会

第 10 回 H26. 7. 24 高知西高校の保護者、校友会、国際交流推進会

第 11 回 H26. 8. 26 高知西高校の保護者、校友会、国際交流推進会

第 12 回 H26. 8. 29 高知南中学校・高校の保護者、校友会、進取会、国際教育振興会

第 13 回 H26. 9. 8 高知南中学校・高校の保護者、進取会

第 14 回 H26. 9. 11 「県立高等学校再編振興計画」のパブリックコメントを行う(案)について協議・決定

○その他

H26. 7. 18 要請を受け、須崎市、中土佐町、津野町の小中学生の保護者を対象とする須崎高校と須崎工業高校の統合案説明会を開催

○県立高等学校再編振興計画の策定

パブリックコメントを実施し、広く県民からいただいた意見も踏まえ、「県立高等学校再編振興計画」を策定。

H26. 9. 12～10. 11 「県立高等学校再編振興計画」(案)に対する意見公募

H26. 10. 22 教育委員会を開催し、「県立高等学校再編振興計画」を決定

○県立高等学校再編振興計画説明会の開催

H26. 11. 17 東部地域(安芸市民会館)

H26. 11. 21 高吾地域(須崎市民文化会館)

H26. 11. 26 中央地域(県庁正庁ホール)

H26. 11. 27 幡多地域(四万十市中央公民館)

(参考)

「県立高等学校再編振興計画」は、今後 10 年間の県立高等学校の在り方と方向性を示した「基本的な考え方」と、基本的な考え方に基づいて県立高等学校の再編振興を実現するための具体的な「実施計画」で構成。

「実施計画」は、平成 35 年度までの 10 年間で、前期と後期の 2 期(前期：平成 26 年度～平成 30 年度、後期：平成 31 年度～平成 35 年度)に分けて策定。今回の「実施計画」は「前期実施計画」とし、後期実施計画は、前期実施計画の実施期間中の適切な時期に策定予定。

前期実施計画(平成 26 年度～平成 30 年度)

※抜粋：「県立高等学校再編振興計画」(平成 26 年 10 月 高知県教育委員会) 「前期実施計画」

(1) 高知南中学校・高等学校と高知西高等学校との統合について

(スケジュール)

高知南中学校・高等学校と高知西高等学校とを統合し、新たな中高一貫教育校を、高知西高等学校の敷地に設置する。

[実施年度] ○新たな中高一貫教育校の併設中学校の設置

平成 30 年度

○新たな中高一貫教育校の併設高等学校にグローバル教育科を設置

平成 33 年度

○高知南中学校・高等学校の募集停止

平成 33 年度

○統合完了

平成 35 年度

ア 統合に向けた考え方

高知市及びその周辺地域においては、一定の生徒数の確保が見込まれる一方で生徒数の減少も予想されており、それに伴い学校規模が縮小していけば、学校の活力が低下していくことが考えられる。将来の子どもたちのために、今後も充実した教育活動を維持していくためには、一律に各学校の学級数を削減していくのではなく、高知市内の学校で統合を行い、まとまった定員削減を行うことで、6 学級以上の活気ある学校を維持することが必要である。

また、社会や経済の急速なグローバル化に伴い、高度な英語運用能力とともに、論理的思考力や課題解決能力、コミュニケーション能力などが備わった人材育成が必要とされている。

さらに、高知南中学校・高等学校周辺は、津波によって長期浸水が予想されている地域であり、高知港に近接していることもあり、他の高等学校よりリスクが高いことや被災後の早期の学校再開が困難となることが想定されている。

これらのことを踏まえ、国際理解教育を中高一貫教育で取り組んできた高知南中学校・高等学校と、英語科を中心に語学教育に力を注いできた高知西高等学校とを統合し、新たな中高一貫教育校を高知西高等学校の敷地に設置することにより、今後も続く生徒数の減少に対応するとともに、グローバル人材の育成に向けた教育活動の充実や震災に強い教育環境の整備を図る。

イ 目指す姿

新たな中高一貫教育校は、時代を担うグローバル人材の育成を目指し、大学進学に向けたより豊かな学力の定着を図るとともに、国際バカロリアの認定に向けた教育にも取り組むなど、高度な英語運用能力や論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力の育成にも重点的に取り組む。そのことにより、本県におけるグローバル教育のトップ校かつ大学進学の拠点校を目指す。

ウ 統合の方法

統合にあたっては、平成 30 年度に新たな中高一貫教育校に移行し、併設中学校を開校する。平成 30 年度から平成 32 年度の高知南中学校の入学生は、入学定員を削減し、学力の定着状況等を確認したうえで、基本的に新たな中高一貫教育校の併設高等学校の普通科に入学する。平成 33 年度から高知南中学校・高等学校は募集停止とし、新たな中高一貫教育校の併設高等学校には、平成 33 年度から英語科に替えてグローバル教育科を置き、その中にグローバルコース及び国際バカロリアコースを設ける。

また、統合後の新たな中高一貫教育校の校名等の取扱については、両校の学校関係者の意見とともに県民の意見も聴取しながら、平成 28 年度末までに県教育委員会で検討し、決定する。

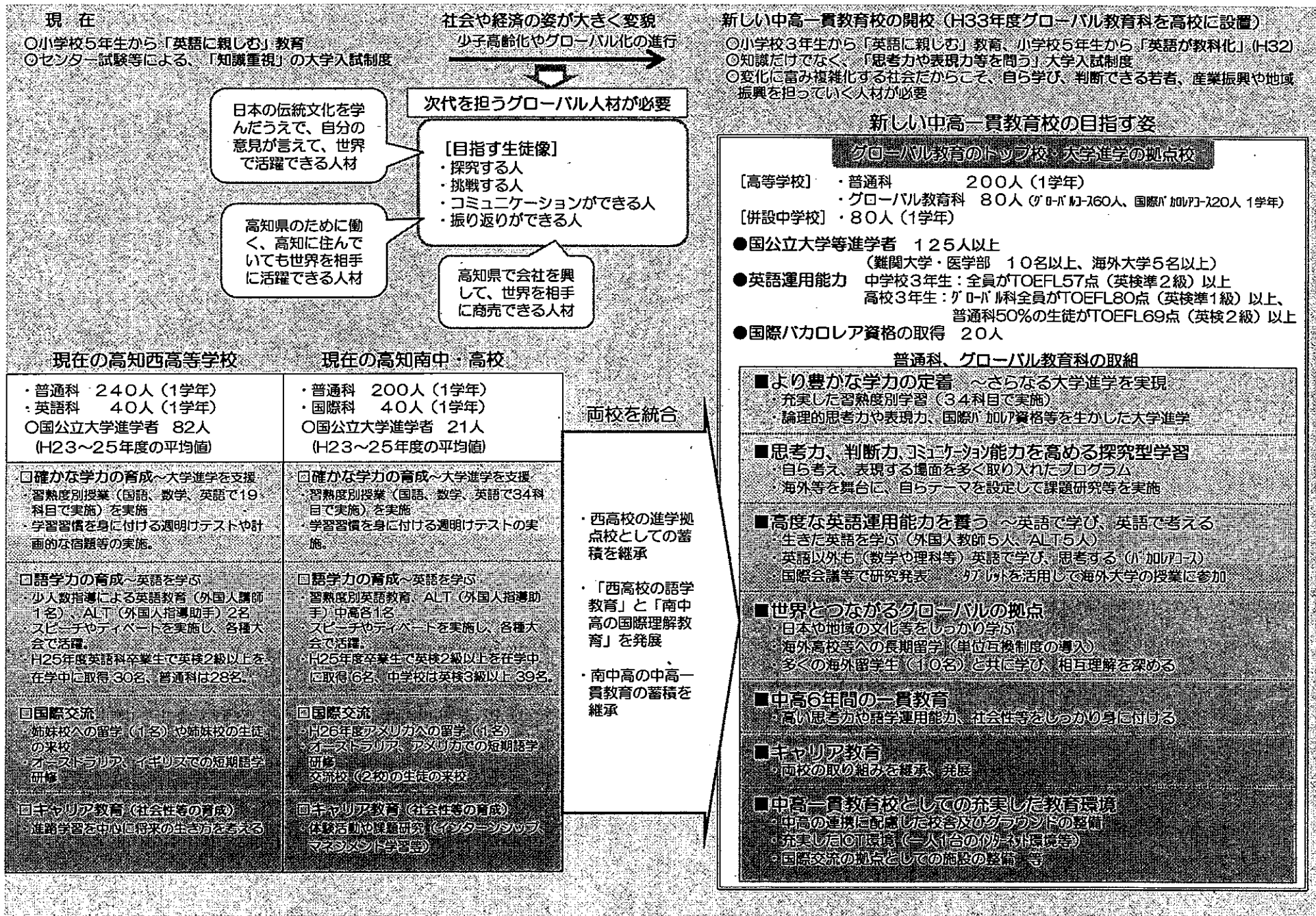
エ 教育環境の充実

新たな中高一貫教育校への統合を円滑に進めるため、探究型教育や語学教育を中心に高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の教育内容の充実を図る。特に平成 33 年度から募集停止となり、その後、2 年間にわたって下級生のいない年度が続く高知南中学校・高等学校については、教育センターと密接に連携して、充実した教育環境を整えることにより、これまで以上の志願者を確保できるよう努める。

新たな中高一貫教育校については、中高の連携に配慮した校舎及びグラウンドの整備等を行う。

現在の高知西高校と高知南中学校・高知南高校の統合後の新しい中高一貫教育校の姿

※抜粋:「県立高等学校再編振興計画」(平成26年10月 高知県教育委員会)



国際バカロレア(IB)について

1 国際バカロレア (IB) とは

- 国際バカロレア機構 (IBO: International Baccalaureate Organization 本部ジュネーブ) が提供する、国際的な視野を持った人材を育成するための教育プログラムです。
- 昭和 43 年に設置。当初の目的は、インターナショナルスクールに通う生徒の大学進学へのルートを確保することでした。
- 平成 28 年 2 月 1 日現在、世界 140 以上の国・地域、4,420 校 (日本における学校教育法第 1 条に規定されている学校は 13 校) で実施しています。
- 教育内容は、考える力やコミュニケーション力を養うことに重点を置いたカリキュラムです。
- 授業は、基本的には日本語ですが、英語による授業も行います。
- 創作活動やスポーツ、ボランティア活動にも力を入れた全人教育です。
- DP^{※下記 (1)} 履修後に行われる認定試験の結果によってディプロマ資格 (国際バカロレアの卒業資格) が授与されます。
- ディプロマ資格を活用した大学入試が、海外の大学はもちろん、国内の大学で実施されています。

(1) 【IB プログラム】

- ア IB (International Baccalaureate) には、年齢に応じて 3 つのプログラムがあります。
 - ① PYP (Primary Years Programme 初等教育プログラム) : 3 歳～12 歳
 - ② MYP (Middle Years Programme 中等教育プログラム) : 中 1～高 1
 - ③ DP (Diploma Programme ディプロマ・プログラム) : 高 2・3
- イ IB プログラムは、国際バカロレア機構による高度な国際教育プログラムであり、厳格な学習評価を行います。

(2) 【基本理念】

- ア IB 教育の目指す学習者像
 - 1 バランスのとれた人
 - 2 思いやりのある人
 - 3 コミュニケーションができる人
 - 4 探求する人
 - 5 知識のある人
 - 6 心を開く人
 - 7 道義心のある人
 - 8 振り返りができる人
 - 9 挑戦する人
 - 10 考える人
 - イ コミュニケーションの重視
 - ・ 全教員がコミュニケーションの教員としての授業を実施
 - ・ 数学および科学におけるコミュニケーション力の育成
 - ・ 構成力とプレゼンテーション力の育成
 - ウ 多文化の理解
 - ・ 海外文学作品を取り扱う授業
 - ・ 国際交流行事の実施
 - エ 全人教育
 - ・ 重要概念を意識した授業
 - ・ 実際の社会とのつながりを考えた授業
- ※知識を詰め込むのではなく、自分で学べる子どもを育てます。また、概念を理解することで、活用力を育成し、知識の質を大切にします。

(3) 【教科の評価】

- ・ 教科ごとに国際バカロレア機構による評価規程が示されており、総合評価として 7 段階の評価をつけます。
- ・ 事前に評価規程を生徒に示し、課題には何が求められているかを生徒に示します。

2 IBの今後の方向性

- ・日本でも「日本再興戦略」（平成 25 年 6 月閣議決定）に基づき、国際バカロレア認定校を平成 30 年までに 200 校に増加することを目標としています。
- ・文部科学省による連絡協議会が実施されており、IB 認定校を増やすための情報交換等を行っています。
- ・IB・DP の導入促進のために教育課程の特例措置を新設（平成 27 年 8 月 19 日に公示・施行）。

3 DP の概要

- ・DP では、DP 試験の結果に基づいて大学入学資格となる DP 資格が授与されます。
- ・DP 資格は、45 点満点のうち 24 点以上で認定されます。
- ・合格しなかった場合は、2 年間再試験ができます。
- ・IB の 6 教科（第 1 言語、第 2 言語、個人と社会、実験科学、数学、芸術）から一つずつ選択し、6 科目の履修が必要です。なお、芸術に代えて、その他の 5 教科から重複して選択することもできます。※6 科目のうち、2 科目は英語で実施（日本語 DP）。
- ・6 科目に加えて、3 つのプログラムとして、課題論文 (EE: Extended Essay)、知の理論 (TOK: Theory of Knowledge)、創造性・活動・奉仕 (CAS: Creativity/Action/Service) が必須科目であります。
- ・IB のシラバス（授業の大まかな学習計画書）に基づいて、授業を行います。
- ・DP 認定試験は、5 月と 11 月の 2 回実施しています。
- ・試験は、IB が指定する試験官が採点します。

4 DP 資格による大学進学の場合

○DP 資格は、イギリスでは大学の教養学部を修了したものと見なしているなど高い位置づけにあります。

○国内大学における入試での DP 資格の活用導入状況

[導入決定の大学] 筑波大学、東京外国語大学、大阪大学、岡山大学、国際教養大学、横浜市立大学、関西学院大学、国際基督教大学、慶應義塾大学、順天堂大学、上智大学、玉川大学、立教大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学の 15 大学

[導入予定の大学] 北海道大学、東北大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、京都大学、広島大学、九州大学、熊本大学、法政大学、明治大学、立命館大学など 25 大学（文部科学省ホームページより、平成 27 年 6 月現在）

※一般社団法人国立大学協会が平成 27 年 9 月 14 日に「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」において、推薦入試、A0 入試、国際バカロレア入試の入学枠を拡大し、入学定員の 30% を目標としている。

○国内 IB 校の海外大学への進学実績例（IB クラス 20 名弱）

ハーバード大学、エール大学、マサチューセッツ工科大学、コロンビア大学、ペンシルベニア大学、デューク大学、ロンドン大学、エジンバラ大学、トロント大学、カリフォルニア大学バークレー校など
(国内 IB 校のホームページより)

新たな中高一貫教育校の学校像について (案)

1 教育目標

高い志を持ってたくましく行動し、地域や国際社会の発展に貢献できるグローバル人材の育成を目指す。

- 1 自ら学び、考える力を身に付け、生涯にわたって学び続ける態度を養う。
- 2 多様な価値観を尊ぶ精神を持ち、他者と共に生きる態度を養う。
- 3 豊かな創造性を持ち、未来を切り拓く、自主・自律の精神を養う。

2 学習者像

探究する人、知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人、信念をもつ人、心を開く人、思いやりのある人、挑戦する人、バランスのとれた人、振り返りができる人

3 身に付けるスキル

思考、コミュニケーション、リサーチ、自己管理、社会性

4 校種別目標

(1) 中学校：グローバル人材の基礎力としての学力・探究力・英語運用能力を育成します。

(2) 高校：高知で学んだというアイデンティティを持ち、よりよい社会を実現しようとする行動できる「生き抜く力」を育成します。

5 高校の学科・コースの名称及び目標

※学科・コースの名称は仮称。アンダーラインは前期実施計画からの変更箇所。

学科の名称	1年生	2年生	3年生
普通科	科内共通	文系	文系選択
		理系	
グローバル科	科内共通	探究コース	理系選択
		IBコース	
		※文系・理系の両方に対応できる選択科目を開講	

(1) 普通科：大学進学を目標に高い学力を身に付け、多様で充実した学びをする学科

多様な進学選択に対応できる幅広い教養と探究力を育成します。

2年次以降は、文系・理系の学習を深める系統を選択します。

(2) グローバル科：グローバルな視野と教養を身に付ける学科

グローバルな視点から社会に貢献できる人材となるための学力、英語運用能力、探究力を育成します。

①探究コース：主体的に様々なことに挑戦するコース

高い英語運用能力と探究力を身に付け、主体的に行動し、多様な体験を通して、バランスのとれた国際感覚を育成します。

②IBコース：自らの学びを追求し、そのための教養を身に付けるコース

国際バカロレア (IB) のダイプロプログラム (DIP) に基づいて学習し、世界基準の高い学力と探究力を育成します。

前期実施計画(平成 26 年度～平成 30 年度)

※抜粋：「県立高等学校再編振興計画」(平成 26 年 10 月 高知県教育委員会)

「前期実施計画」

(2) 須崎工業高等学校と須崎高等学校との統合について

(スケジュール)

須崎工業高等学校と須崎高等学校とを統合し、適正規模を維持した新たな学校を設け、高吾地域の拠点校とする。須崎工業高等学校の敷地に統合後の新たな学校を設置する。

(実施年度) ○統合に向けた学科改編

平成 29 年度

○統合完了

平成 31 年度

ア 統合に向けた考え方

高吾地域の生徒数の減少が続く中にあっても、より良い教育環境を保証することができると見られる適正規模の、1 学年 4 学級規模以上の学校を維持することが重要であるが、両校ともに生徒数が 3 学級規模の学校となっている。

また、須崎高等学校は、新庄川の河口付近に位置しており、南海トラフ地震による津波被害が危惧されていることから、津波被害から確実に生徒を守ることや被災後の学校の早期再開を考えると、高台への移転が望ましい。

こうしたことを踏まえ、震災に強く、適正規模を維持した活気ある高吾地域の拠点校を設けるため、須崎工業高等学校と須崎高等学校を統合し、新たな高等学校を須崎工業高等学校の敷地に設置する。

イ 目指す姿

統合後の新たな高等学校は、就職に強い須崎工業高等学校と、進学指導の実績がある須崎高等学校のそれぞれの強みを生かし、さらに発展させることで、高吾地域の拠点校として、大学進学等にも対応できる学力を保証するとともに、体験的な活動を通して勤労観・職業観を養い、進学から就職まで、生徒の多様な進路希望に対応する。そのため、習熟度に応じた授業やきめ細かいカリキュラム編成による学習指導、国公立大学進学により対応できる教育課程を実施するとともに、工業科では、幅広い専門的な知識・技術を学びながら、専門分野を深く学ぶ体制を整え、職業教育の充実を図るとともに就職支援の強化を推進する。

また、地域を支える人材の育成を図るために、地域と連携した防災教育の推進や、ドラゴンカヌーに代表される地域おこし活動に取り組むことで、社会性や協調性の育成を図る。さらに、生徒の希望に応じた多様な部活動の充実や生徒会活動、体育祭・文化祭等の特別活動の充実を図ることで、生徒が切磋琢磨できる環境づくりを推進する。

こうした取組を進めていくことで、地域の方々から信頼され、地域内の中学校の生徒が行きたいと思う学校づくりを推進し、地域内の中学校からの進学率向上を目指す。

ウ 統合の方法

統合後の新たな高等学校は、全日制の課程で普通科 3 学級と工業科 3 学級の 1 学年 6 学級規模とし、1 学年 1 学級規模の定時制を併置する。

統合にあたっては、須崎工業高等学校は、平成 29 年度入学生より、現在の 4 学科の内容を継承する方向で学科改編を行う。須崎高等学校は、平成 29 年度入学生より、総合学科から普通科に学科改編を行う。

統合は、平成 31 年 4 月 1 日に実施し、平成 31 年度入学生は統合後の新たな学校で募集する。

統合後の新たな学校の校名等の取扱については、両校の学校関係者の意見とともに県民の意見も聴取しながら平成 28 年度末までに県教育委員会にて検討し、決定する。

エ 教育環境の充実

統合までの間、防災教育で地域と連携した取組などの両校の生徒の交流を積極的に進めるとともに、学力向上や教員の指導力向上に向けた取組を進めていく。

また、ハード面の整備については、移転先となる須崎工業高等学校の校舎の増改築や設備の更新、グラウンドの拡張などを行うとともに、津波などの災害時には地域の避難路としても活用できる通路の整備を行うことも検討する。

須崎高等学校と須崎工業高等学校の統合後の新しい学校の姿

※抜粋:「県立高等学校再編振興計画」(平成26年10月 高知県教育委員会)

高吾地域の拠点校となる新たな高等学校へのさらなる発展

■適正規模を維持

- ・生徒の多様な進路希望に対応
- ・活気あふれる学校

■将来にわたって安心して学ぶことができる教育環境の整備

- ・震災に強く、地域の防災拠点としての活用も見据えた設備

定時制

地域の多様な学習ニーズのある生徒に柔軟に対応
 <<1学級>>

普通科

学習指導の充実に取り組み、大学進学率の進路実現に努める。
 <<3学級>>

工業科

切磋琢磨する環境
 3校までの伝統を継承し、さらなる発展を
 <<3学級>>

■拠点校としての教育の充実

大学進学等にも対応できる学力を保證するとともに、体験的な活動を通して勤労観・職業観を養うことで、進学から就職まで、生徒の多様な進路希望に対応する。
 ・習熟度に応じた授業の実施やきめ細かなカリキュラム編成による学習指導の充実
 ・国公立大学進学に、より対応できる教育課程の充実
 ・工業科においては、幅広い専門的知識・技術を学ぶとともに専門分野を深く学ぶ体制を整え、職業教育の充実を図るとともに、就職支援を強化する。
 ・基礎学力や勤労観・職業観を、引き継ぎしつかりと身に付けることにより、工業科における就職率100%の実績を維持する。

○地域を支える人材の育成

- ・防災教育で地域と連携
- ・ドラゴンカヌーに代表される地域おこし活動の継承
 →積極的に地域貢献に取り組み社会性や協調性を育成

○生徒が切磋琢磨できる環境づくり

- ・生徒の希望に応じた多様な部活動の充実
- ・生徒会活動や体育祭・文化祭等の特別活動の充実

地域内(※)の中学校からの進学率向上を目指す。
 (現在の45%を65%以上に)
 ※須崎市、中土佐町、津野町

■教育環境(ハード面)の整備

- ・須崎工業高校の校舎の増改築、設備の更新、グラウンドの拡張などによる学習環境の整備
- ・避難路としても活用できる、新たな通学路の整備

改編し統合

須崎高等学校
 ・生徒数:335名
 ・総合学科4学級、定時制1学級
 ・総合学科の特色を生かしながら、国公立大学をはじめとする大学や専門学校への進学、就職と多様な生徒の進路実現に貢献

須崎工業高等学校
 ・生徒数:279名
 ・工業科4科4学級
 ・高吾地域唯一の工業高校として、県内外の大手企業への就職に加え、国公立大学等への進学も実績がある。

(H25.5.1現在)

高吾地域拠点校の学校像について

※平成 28 年 2 月 12 日の高知県教育委員会において、「高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科の設置に関する規則の一部を改正する規則議案」を付議し、決定。

1 教育目標

「人を思い 人とつながり 人に役立つ」 人材の育成を目指す

- 1 寛容と友愛の精神を育みます
- 2 志をもって勉学に励み、幅広い教養や専門的知識・技能を育みます
- 3 未来の社会を担おうという気概と創造力・行動力を育みます

2 普通科、工業科及び定時制の目標

地域を支える人材の育成により地域から信頼される学校を目指します

- (1) 普通科：自ら学ぶ態度を育て、確かな学力の向上と将来を切り拓く力の育成を目指します
- (2) 工業科：工業に関する知識、技能・技術を身につけ、信頼と尊敬に価する工業技術者の育成を目指します
- (3) 定時制：社会人として必要な基礎学力・態度を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目指します

3 学科・専攻及びコースについて

※学科等については、平成 29 年 4 月 1 日より施行。

改編前の学科の名称	改編後の学科、コース及び専攻の名称		
総合学科	普通科	文理コース	教養コース
機械科	機械系学科	機械専攻	
造船科		造船専攻	
電気情報科	電気情報系学科	電気専攻	電子情報専攻
ユニバーサルデザイン科	システム工学系学科	機械制御専攻	住環境専攻

(1) 普通科

- ①文理コース：国公立大学を中心とした四年制大学へ進学希望に対応する学力を身につける。
- ②教養コース：多様な学力層の生徒にきめ細かく指導し、生徒一人一人の多様な進路希望に対応し、地域社会の発展に貢献できる能力や態度を養う。

(2) 工業に関する学科

- ①機械専攻：機械に関する知識、技術を修得し、自動車や鉄鋼の分野を中心とした企業の中核を担うことができる技術者を育成する。
- ②造船専攻：船舶の建造に関する知識、技術を修得し、造船関連企業の中核を担うことができる技術者を育成する。
- ③電気専攻：電気に関する知識、技術を修得し、電力や施工の分野を中心とした企業の中核を担うことができる技術者を育成する。
- ④電子情報専攻：電子・情報技術に関する知識や技術を修得し、ITやコンピュータ制御・通信の分野を中心とした企業の中核を担うことができる技術者を育成する。
- ⑤機械制御専攻：ロボット制御に関する知識、技術・技能を修得し、数値制御機械、産業用ロボット分野を中心とした企業の中核を担うことができる技術者を育成する。
- ⑥住環境専攻：いえづくり、まちづくりの知識とそれに伴う身近な木材や金属を加工するための機械加工技術、電気の基礎的技術を修得し、住環境の分野における企業の中核を担うことができる技術者を育成する。